

まえがき

この冊子を手にとっていただき、ありがとうございます。

今年は、高校生のあなたに読んでほしい50冊を、次の4つのジャンルに分けて紹介しました。命名者は副委員長の松重華菜子さんです。

知勇とえがお	青春・ファンタジー系
英知のとびら	知識・学問系
感銘のいずみ	感動系・せつない系
瞑想とみらい	発見・思索系

この冊子には高校生のリアルな感想が詰まっていますので、興味の持てる本が見つかること間違いなしです。この冊子があなたの読書のきっかけとなり、まだ知らない本の世界へ踏み出すときの道標となれば幸いです。

河合俊和（図書委員長）

図書委員会ではさまざまな読書広報活動をしているが、蒼碑祭・文化の部では展示を毎年行い、ここ3年は小冊子も発行している（'10年「高校生の、君が主人公」、'11年「これぞ岡山人の本」）。

「青春はここで」というのは、「青春はここ」に書かれているという意味でもあり、「青春」時代は「ここ（この本）で」出会ってほしい、という意味でもある。

高校生はまさしく青春の最中にいる。読書は時期を選ぶものではないが、青春時代にこそ出会って欲しい本がある。なぜなら、青春時代は人生の中で最も感受性が瑞々しく豊かな時だからである。その時期に深く感動する本に巡り会ってほしい。また、世界の不思議に触れ、学ぶことの楽しさを知ってほしい。そして、人生について悩むこの時期に、深い思索に導く本に触れてほしい。

そのような想いを込めて50冊を選び、生徒のレビューを載せた。選書は、高見の長年の図書館活動・読書指導をもとにしている。偏りもあると思うが、ティーンズ対象のガイド本が少ない中、参考になれば幸いである。

この冊子から、豊かな世界が広がることを期待している。

司書教諭 高見京子

知勇とえがお

『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎）	4
『二十歳（はたち）のころ』（立花隆）	5
『光が照らす未来 岩波ジュニア新書』（石井幹子）	6
『SLAM DUNK』（井上雄彦）	7
『バッテリー』（あさのあつこ）	8
『図書館戦争』（有川浩）	9
『夜のピクニック』（恩田陸）	10
『GO』（金城一紀）	11
『一瞬の風になれ』（佐藤多佳子）	12
『僕がかぐや姫』（松村栄子）	13
『嘘つきアーニヤの真っ赤な真実』（米原万里）	14
『赤毛のアン』（モンゴメリ）	15
『ゲド戦記』（ル＝グウィン）	16
『モモ』（ミヒヤエル・エンデ）	17

英知のとびら

『14 歳の君へ』（池田晶子）	18
『世界がもし 100 人の村だったら』（池田香代子）	19
『これからの「正義」の話しよう』（マイケル・サンデル）	20
『宇宙は何でできているのか 幻冬舎新書』（村山斉）	21
『生物と無生物のあいだ 講談社現代新書』（福岡伸一）	22
『ゾウの時間ネズミの時間 中公新書』（本川達雄）	23
『あさきゆめみし』（大和和紀）	24
『日本語と外国語 岩波新書』（鈴木孝夫）	25
『文車日記』（田辺聖子）	26

感銘の いずみ

『生きがいについて』（神谷美恵子）	27
『わたしの生涯』（ヘレン・ケラー）	28
『そして、奇跡は起こった！』（ジェニファー・アームストロング）	29
『忘れられた日本人』（宮本常一）	30
『100万回生きたねこ』（佐野洋子）	31
『木を植えた男』（ジャン・ジオノ、フレデリック・バック）	32
『三国志』（横山光輝）	33
『詩のころを読む 岩波ジュニア新書』（茨木のり子）	34
『父と暮せば』（井上ひさし）	35
『壬生義士伝』（浅田次郎）	36
『博士の愛した数式』（小川洋子）	37
『ビタミンF』（重松清）	38
『坂の上の雲』（司馬遼太郎）	39
『村田エフエンディ滞土録』（梨木香歩）	40
『永遠の0』（百田尚樹）	41
『ポッコちゃん』（星新一）	42
『夜と霧』（ヴィクトール・E. フランクル）	43
『星の王子さま』（サン＝テグジュペリ）	44

瞑想と みらい

『悩む力 集英社新書』（姜尚中）	45
『サンタクロースっているんでしょうか？』（ニューヨークサン新聞社）	46
『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン）	47
『火の鳥』（手塚治虫）	48
『獣の奏者』（上橋菜穂子）	49
『銀河鉄道の夜』（宮沢賢治）	50
『1Q84』（村上春樹）	51
『動物農場』（ジョージ・オーウェル）	52
『アルジャーノンに花束を』（ダニエル・キイス）	53

これからの人生をどう生きていくか



『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）

著者：吉野源三郎

出版社：岩波書店

出版年：1982年 / NDC：159.5

わたしのレビュー

これからの人生をいかに、どう生きていくのかを、コペル君の成長と共に描いた作品です。この作品は1937年に出版されてから、太平洋戦争など色々な時代を経て、版を重ねてきました。

物語は、大学を出て間もない法学士の叔父さんとコペル君の交流を軸に展開します。良い友達を持っている幸せ、すべての人がお互いに良い友達であるような、そういう世の中が来なければいけない。人類が今まで進歩してきたのだから、今にそういう世の中に行きつくのだとコペル君は願い、役に立つ人間になりたいと思っています。

これからの人生をどう生きていくか、この本を読んで考えてみよう。

[K.N]

司書教諭のコメント

コペル（ニクス）は発想の大転回をした天文学者。

オススメ中のオススメ。

人生の転機



『二十歳（はたち）のころ』

著者：立花隆、東京大学教養学部立花隆ゼミ

出版社：新潮社

出版年：1998年 / NDC：281.04

わたしのレビュー

『二十歳のころ』は、立花隆のゼミで企画された、現役東大生がテーマに沿って取材をし、文章にまとめるプロジェクトの一環を本にしたものだ。取材協力者は60名にもなる。誰もが知る有名人と言えば、赤川次郎さん、水木しげるさんなど。はたまた学生の両親、元オウム教信者といった人まで、様々な人がいておもしろい。

読んでみると、文章にずいぶん凸凹があった。なにせ、インタビュアーが60名以上いるのだからしかたがない。しかし、それもまたこの本のおもしろさだと思う。たくさんの人色んな二十歳があり、それにつながりを持って、過去と未来も語りかけてくれる。

[K.T]

司書教諭のコメント

誰にも若い時があった。「二十歳」もまた、青春の代名詞。

未来を生きるあなたへ、「自分を信じよう」



『光が照らす未来』（岩波ジュニア新書）

著 者： 石井幹子

出版社： 岩波書店

出版年： 2010年 / NDC： 545.6

わたしのレビュー

東京タワー、明石海峡大橋などのライトアップ（この言葉を広めたのも石井さんです）で知られる世界的照明デザイナーであり、日本では当時まったく知られていなかった照明デザインという仕事で世界を切り拓いた石井幹子さん。彼女の人生を辿りながら、照明デザインという仕事の素晴らしさ、その可能性を語る本です。

石井さんはこの本で、自分が高校生で悩んだこと、ヨーロッパ留学などの経験を生かし、若い世代へ向けてのメッセージを書いています。皆の知らない照明デザインの仕事、目標の定め方など、この本を読めば、きっと悩み多き高校生のためになると思います。人生の見方が変わる一冊です。

[R.Y]

司書教諭のコメント

比喩ではなく、光が未来を照らすことを実感する。進路を考える上でもオススメ。

青春そのもの



『SLAM DUNK 完全版』全 24 巻

著 者： 井上雄彦

出版社： 集英社

出版年： 2001～2002年 / NDC： 726.1

わたしのレビュー

舞台は県立湘北高校男子バスケットボール部。単純な男・桜木花道は、好きな女の子に気に入られたいという単純な理由でバスケ部に入部した。そこで出会ったのは、全国制覇を目指し部員をしごく「ゴリ」こと赤木キャプテン、花道のライバルとなる流川楓（るかわかえで）など個性豊かなメンバーたち。かくして花道のバスケットマンとしての波乱の日々が始まる！！

バスケを通して様々な試練を乗り越え、色々な気持ちを知って成長していく花道の姿が私を熱い気持ちにさせてくれ、あきらめないことの大切さを教えてくれました。

汗、友情、葛藤、感動。青春の要素が全部詰まった、笑えて泣ける最高のストーリーです！

[Y.F]

司書教諭のコメント

高校生のエネルギーがはちきれんばかりに溢れる、時代を超える青春マンガ。

友情



『バッテリー』全6巻（角川文庫）

著者：あさのあつこ / イラスト：佐藤真紀子

出版社：角川書店

出版年：2003～2007年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

主人公の原田巧を含む原田一家は、祖父のいる岡山県新田市に引っ越してきた。巧は永倉豪と出会い、二人はバッテリーを組むこととなる。しかし、中学校では戸村監督の徹底した管理野球が待ち受けており、巧は監督と衝突してしまう。また、巧の才能に対して嫉妬や妬みを感じていた先輩たちに、巧は陰湿ないじめを受け、部活動も停止されてしまう。そのまま三年生になり、強豪の横手二中と試合をした新田東中は打ちのめされる。球を捕れなかった責任を感じている豪……。

ピッチャー・原田巧と、キャッチャー・永倉豪の二人の物語であり、少年たちの真剣な対峙と美しい自然描写は必見です。また、岡山県が舞台なので、親近感が湧きます。

[K.U]

司書教諭のコメント

少年を書かせたら、作者の右に出る者はいない。口コミで広がり、大人気になった。

走れ!!本を、自由を守るために



『図書館戦争』

著者：有川浩 / イラスト：徒花 スクモ

出版社：アスキー・メディアワークス

出版年：2006年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

正化三十一年。法律として検閲を許可した「メディア良化法」。そこに唯一対抗できたのは図書館であった。本をめぐる抗争は激化し、本を刈るために、本を守るために、人々は武器を手にした。—なんて小難しく書いていますが、熱血バカ:郁が、怒れるチビ:堂上教官に小突かれながら、成長していく話です。

まずオススメしたいのは、キャラとテンポの良さ。つい噴き出してしまうような展開で時間を忘れちゃいます。受験生には危険な面白さなので、取り扱いには十分ご注意を……。

そして何とんでも「甘さ」。主人公たちの不器用でキュンとくる恋愛模様他、多数収録！（甘い話が大好きの方はぜひ『別冊』もどうぞ）後悔させない面白さが詰まっています。

[H.M]

司書教諭のコメント

「図書館の自由に関する宣言」をベースにしたラブコメ。有川浩は、今生徒に最も人気の作家の一人。

青春



『夜のピクニック』

著 者： 恩田陸

出版社： 新潮社

出版年： 2004年 / NDC： 913.6

わたしのレビュー

この物語の主人公の貴子と融は異母兄弟なのですが、知っている人は少なく、教師も知らないぐらいです。そのため、二人は同じ学校にもかかわらず、一度も話したことがありません。お互い気にはなっているけど関わらない、そんな二人の雰囲気周囲の人は感じ取っています。

この物語は、二人の通っている学校で1年に1度行われる歩行祭の日を描いています。二人の心の変化、周りの人々との関わりによって二人の関係も変わります。中でも、去年に続き今年も現れた、謎の男の子が二人の関係を大きく変えます。この男の子は誰なのか？ 貴子は歩行祭である賭けをしますが、それは何なのか？ 貴子はその賭けに勝てるのか？

[N.F]

司書教諭のコメント

たった一日に凝縮された高校三年間。本が出版された頃から高校生が主人公の小説が増えてきた。

国籍を越えて



『GO』

著者：金城一紀

出版社：講談社

出版年：2000年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

この本は、国籍を朝鮮から韓国に変えた在日コリアンの青年の物語である。

日本で生まれ、日本で育った在日コリアンの主人公は、国籍で人を線引きする日本という国に疑問を抱いていた。私は日本人だが、祖先に外国人がいなかったとは限らないし、日本の生活しか知らない外国人やその逆の人もいるだろう。何をもって日本人とするか外国人とするか定義することは本当に難しいと実感すると同時に、人の国籍だけでその人に先入観を持ったり、態度を変えたりすることがなくなってゆけばいいと思った。

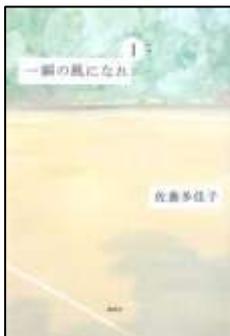
作中では、主人公が様々な出来事を通して国籍について考える様子が見どころである。

[R.N]

司書教諭のコメント

高校生のカップル。話題はおもしろいもの探し。題は「さあ、行こう」、「行け」。

高校生って素晴らしい！



『一瞬の風になれ』全3巻

著者：佐藤多佳子

出版社：講談社

出版年：2006年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

この物語は、どんなにきつい練習にもめげない努力家の神谷新二と、柔軟性に優れており、運動神経抜群で俊足の一ノ瀬連が、春野台高校陸上部で挫折や達成感を味わいながら成長していく物語である。

新二は高校入学後初めての体育の授業で連と50m走を一緒に走ったことがきっかけで陸上を始めた。1年生で大会に出場するが、緊張のため良い走りができなかった。しかし、後に後輩の桃内のおかげでその弱点を克服することができるようになる。また、連は体力がなくすぐにバテてしまっていたが、普段の練習や合宿を通して、アスリートらしい体つきになることができた。春野台高校陸上部はインターハイ出場という目標をかかげ、チーム一丸となり頑張っていく。新二と連は良き友人であり良きライバルである。

この本を通して、目標を持って、努力することの大切さや人と人との心のつながりを学ぶことができた。

[M.O]

司書教諭のコメント

部活小説の代表的な作品。高校生、陸上部、さあ、ホップ・ステップ・ジャンプ！

私は誰のものではない



『僕がかぐや姫』

著者：松村栄子

出版社：福武書店

出版年：1991年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

主人公は一人称が〈僕〉の高校三年生女子。別に男になりたいわけではなく、彼女は「女性になること」を保留したかったのです。

大切なものを壊すのが怖かった彼女にとって〈僕〉は防波堤でした。しかし、やがてそれは崩れていきます。

ついに彼女は〈僕〉と決別し、〈わたし〉を手に入れます。ゼロではあるがマイナスではない、強いくわたし〉を手に入れた彼女は、彼女なりの「女性」として成長していくのでしょうか。

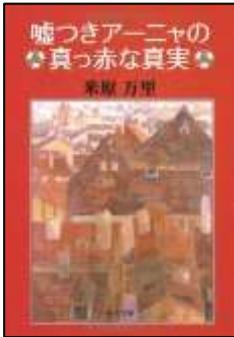
大人ではなく、かといって子どもでもない私たちには共感できる面もあるのではないかと思います。思春期特有の危うさと脆さ、それらを抱えながらも強くあろうとする彼女たちに私は惹かれました。

[N.I]

司書教諭のコメント

センター試験にも採られた。絶版であるのが惜しい。

作者自身の、推理小説みたいなノンフィクション



『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』（角川文庫）

著 者： 米原万里

出版社： 角川書店

出版年： 2004 年 / NDC： 914.6

わたしのレビュー

作者のマリは、9 歳だった 1960 年から 4 年間、ユーゴスラビアやギリシャ、ルーマニアや日本などの子どもが集まったプラハのソビエト学校で、個性的な友達に囲まれて過ごしました。その当時の同級生である友達が、この本に収録されている三編のそれぞれの主人公です。別れてから 30 年、激動の東欧の歴史の中で翻弄され、音信が途絶えた 3 人を捜し当てたマリは、少女時代に知り得なかったリッツアの意外な出生の秘密など、驚きの真実に出会います。

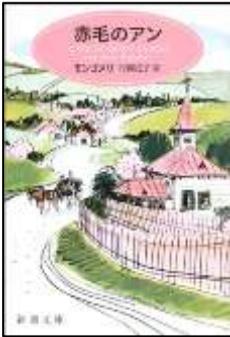
かけがえのない 3 人の友達とその家族のフィクションみたいな人生を 1 つ 1 つを丹念に辿りながら、その消息を捜すマリの姿に感動させられます。読んでみると、世界の歴史や民族、自分自身についてなどを深く考えさせられる本です。

[M.M]

司書教諭のコメント

ロシア語同時通訳、作家、エッセイスト。自由人・米原の、ユーモアのある、闊達な文章。

何でも知りたい



『赤毛のアン』（新潮文庫）

著 者： モンゴメリ / 訳： 村岡花子

出版社： 新潮社

出版年： 1987年 / NDC： 933.7

わたしのレビュー

主人公の少女アン・シャーリーは生まれてすぐに両親と死に別れ孤児となる。ふたつの家庭と施設を経て、アンはプリンスエドワード島の初老の兄妹に引き取られ、グリーンゲーブルズという素晴らしい場所で仲間と出会い、更には「心の友」とも出会う。様々な事件を起こしながらも、おてんばで想像にふけてばかりだった少女は、ぐんぐんと強くしなやかな女性へと成長していく。

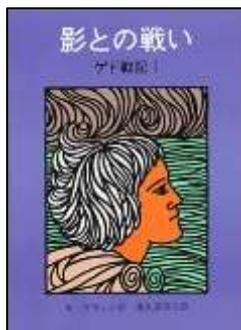
この本には自然を表現するたくさんの言葉が出てくるが、読んでいる自分もその素敵な自然の中にいるような気分になれる。読み終わった後、出会いの嬉しさ、別れの悲しさ、成長していくことの喜びと切なさ、友情、そして何よりも大きくて温かな愛を感じることができた。この本には、そんなたくさんの愛が詰まっている。

[M.M]

司書教諭のコメント

アンの得意は「想像」「興味」。少女時代からアンの娘への時代まで話は続く。

自分とは……？



『ゲド戦記』全6巻

著者：ル＝グウィン / 訳：清水真砂子

出版社：岩波書店

出版年：1976～2004年 / NDC：933.7

わたしのレビュー

映画にハマり、原作も読んでみることにした。

ハイタカは13歳になるまで小さな村で暮らし、その後魔法使いのオジオンに会って「ゲド」という真の名をもらい、共に旅に出る。その後、ローク島の学院に通うことになったゲドは、そこでめきめきと上達し、たちまち力をつける。しかし、入ったころから犬猿の仲であるヒスイに挑発され、謎の黒い影を呼び出してしまう。

影を倒す旅に出たその先で知った影の正体とは……！？

[Y.K.]

司書教諭のコメント

「真の名」とは？ 愛すること、生きていくこと。壮大なファンタジー。

大切なことは「無駄」の中にある



『モモ』

著者： ミハエル・エンデ / 訳： 大島かおり

出版社： 岩波書店

出版年： 1986年 / NDC： 943.7

わたしのレビュー

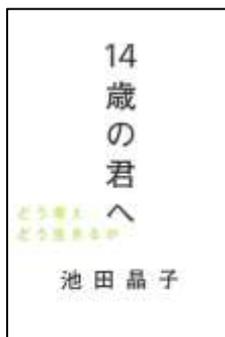
ある町の円形劇場に突然住み着いた少女・モモ。彼女の特技は「人の話を聞くこと」。町の人々は悩みがあればすぐにモモのところに行って話を聞いてもらいました。ところがある日、穏やかなモモたちの町に灰色の男たちが現れました。彼らの目的は「時間を奪うこと」にありました。灰色の男たちに諭された町の人々は「時間貯蓄銀行」に時間を貯めるため、日々の無駄な時間を削り、忙しく生活するようになってしまいました。彼らを救うため、モモと時間泥棒たちの戦いが始まります！

町の人々は、時間を貯めれば貯めるほど、生活はやせ細り、怒りっぽくなってしまいました。「時間の有効活用」は「無駄を省くこと」に置き換えられがちですが、私たちにとって本当に大切なことは「無駄」の中にあると思います。時間がないと感じているあなた、時間泥棒に完全に時間を盗まれる前に、「モモ」を読んでみませんか？ [W.U]

司書教諭のコメント

ますます時間に追われた生活をしている現代人……。『はてしない物語』も楽しい。

生き方の哲学



『14歳の君へ』

著者：池田晶子

出版社：毎日新聞社

出版年：2006年 / NDC：100

わたしのレビュー

この本は、14歳の人へ向けて「なぜ人は生きてゆかなければならないのか」というテーマで書かれた本である。中学生向けの本だが、高校生である私たちが読んでも充分満足できる内容になっている。

私はこの本を読んで、「他人から好かれるためには、まず自分が人を好きになることから始めれば良い」という内容にとっても共感した。多くの人は、自分に好意的な人とは仲良くなりたいと思うはずだから、この考え方は良いものだと思った。

また「どんな境遇でも、自分が幸福だと思えば幸福になることができる」という言葉があり、これは当たり前のことだが、素晴らしいことだと思った。

少し生活に疲れてしまったとき、この本を読むといいかもしれない。

[S.S]

司書教諭のコメント

わかりやすく哲学を語り続けていた池田晶子。早世が惜まれる。

あなたに芽生える新たな世界観



『世界がもし 100 人の村だったら』

再 話： 池田香代子 / 対訳： C.ダグラス・ラミス

出版社： マガジンハウス

出版年： 2001 年 / NDC： 304

わたしのレビュー

この本は、「地球上に生きる何十億の人々を、もし 100 人の村に縮めたらどうなるのか」をあらわした本、つまり、100%のうち何%の人々がその項目に属するのかを分かりやすく明記した本です。

私は、この本を英語の授業課題で知り、興味がわきました。実際この本は、世界中の人々のもとを渡り、少しずつその文の形を変えていった一通のメールが元になっています。

印象に残った部分は「村の 100 人のうち 1 人が大学の教育を受け 2 人がコンピューターをもっています」という一文です。この文から、日本という国は世界においてどれほど裕福なのかを思い知りました。

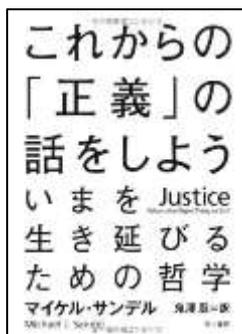
この本を読むと、今まで自分の見ていた世界が 180 度違って見えるはずです。

[S.I]

司書教諭のコメント

世界中を感動で包んだインターネットの物語。この村の実態を知り、愛そう。

あなたが考える「正義」とは？



『これからの「正義」の話しよう』

著者：マイケル・サンデル / 訳：鬼沢忍

出版社：早川書房

出版年：2010年 / NDC：311.1

わたしのレビュー

この本の著者であるマイケル・サンデルはハーバード大学教授であり、類まれなる講師の名手として有名です。彼の各部科目「Justice」はあまりにも人気で、大学史上初めて一般に講義を公開したほどです。

本書では、主に「正義」について3つのアプローチを挙げています。しかし、彼は自分の考えを読者へ押し付けるのではなく、正義について考え、自分自身の考えを批判的に検討してみてもどうだろう、と勧めるだけです。そのおかげで読者は強制された観念ではなく、自分自身の考えで正義を考えられるのだと思います。

一見、難しそうに見えますが、分かりやすい例え話が混ぜられていて理解しやすいと思います。

[T.A]

司書教諭のコメント

対話式講義の中で考えを深める。功利主義に席卷される現代への批判がある。

宇宙の限りなく小さくて大きな物語



『宇宙は何でできているのか』（幻冬舎新書）

著 者： 村山 斉

出版社： 幻冬舎

出版年： 2010年 / NDC： 429.6

わたしのレビュー

宇宙は何でできているのか。素粒子物理学の基本中の基本をやさしくかみくだきながら「宇宙はどう始まったのか」、「私たちはなぜ存在するのか」、「宇宙はこれからどうなるのか」という疑問に挑む、限りなく小さくて大きな物語です。

惑星をりんごに例えるなど、誰にでもわかりやすい語り口で書かれているので、宇宙に興味がある人も、そうでない人も、楽しく読めます。

[A.K]

司書教諭のコメント

宇宙の謎に答え、ますます宇宙に対する謎や興味が広がっていき、本校のモットー「気宇宏大」にも通じる本。

生物は生きている



『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書）

著 者： 福岡伸一

出版社： 講談社

出版年： 2007年 / NDC： 460.4

わたしのレビュー

この本は、生物に興味がある、または理論が好きな人にお勧めです。生物とはいったい何なのか、無生物との違いは何なのかを探っていきます。例えば、原子の小ささに対する我々人間の身体は、なぜこんなにも大きいのか。それは、個々の原子の働きの誤差率を小さくするためなのだからか。

皆さんの考える生物の定義は、どんなものなのでしょう。呼吸をすること？ 食べること？ 動くこと？ この本を読んで答えを探してみませんか？

[M.K]

司書教諭のコメント

フェルメール好きな著者が、読み物のように生物を語る。

生きるということの考え方が変わる！



『ゾウの時間ネズミの時間』（中公新書）

著 者： 本川達雄

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999年 / NDC： 481.3

わたしのレビュー

世界のたくさんの生き物はそれぞれ大きさや形や色などが様々です。

小さな生き物は比較的早く死んでしまい、大きな生き物はずっと長く生きていて、小さな生き物は生きていられる時間が短く損をしているのではないかと考えたことがある人もいるかもしれません。

しかし、一生の間での心臓の打つ回数はどの生き物も共通で同じなのです。小さな生き物と大きな生き物は時間のスピードが異なるだけで、一生を生ききったということには変わりません。

他の生き物と心臓の打つ回数が同じという中で、自分が今持っている時間をどのように使って生きるかということを考えさせられる1冊です。

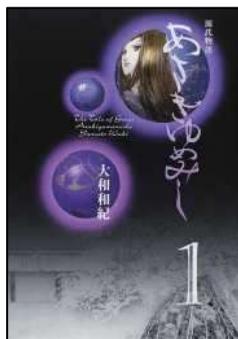
計算式や生物学的な話が出てきたりしますが、図表が豊富にあるのでわかりやすいと思います。ぜひ読んでみてください。

[N.F]

司書教諭のコメント

ベストセラーになった生物の本。著者は動物の歌をたくさん作っており、絵本も出している。

恋



『あさきゆめみし』全7巻（講談社漫画文庫）

著者：大和和紀

出版社：講談社

出版年：2001年 / NDC：726.1

わたしのレビュー

『あさきゆめみし』は、物語文学を完成させたとされる『源氏物語』を他のどの作品よりも忠実に再現し、漫画化したものだ。『源氏物語』を含め、古典作品に興味のある人にお勧めである。

私はこの作品を読んで、ただの浮気者だと思っていた光源氏の印象が一変した。彼は大勢の女性を愛したが、そのどれもが本当だった。なぜなら、彼はどの女性との恋でも必ず大いに喜び、大いに哀しむという、豊かな感情を見せているからだ。また、源氏と恋をする女性もとても魅力的だった。特に、紫の上、末摘の花、花散里といった女性たちは、それぞれ個性もあり魅力的だと思った。

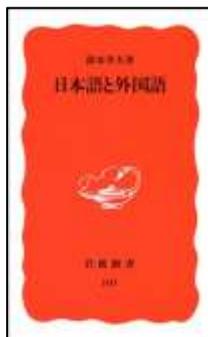
「古典は難しい」という意識が払しょくできるシリーズ。

[C.K]

司書教諭のコメント

「古典をマンガで」を超えている。本文に忠実。画集もヒット。

誤解を生じさせないために



『日本語と外国語』（岩波新書）

著者：鈴木孝夫

出版社：岩波書店

出版年：1990年 / NDC：804

わたしのレビュー

最近、文化や歴史的認識の欠如で国家間の摩擦が問題になっています。これを防ぐために、自分の国の文化や言語習慣に影響されて解釈しないように、正しく日本語を理解することが大切な心構えです。

本書では、この心構えを「虹は6色か」、「太陽と月」など、著者の体験をもとにした具体例を挙げ、詳しく説明しています。

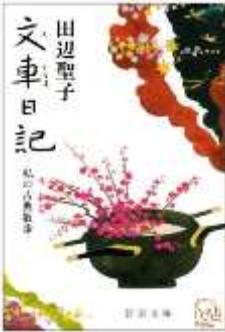
この本は、外国語に興味のある人や海外に住んでみたいと思っている人にオススメです。

[S.Y]

司書教諭のコメント

言葉の違いによる文化の違いを具体的に実感する。グローバルな時代に言葉から世界を考える。

散歩している気分で古典を読んでみませんか？



『文車日記』（新潮文庫）

著者：田辺聖子

出版社：新潮社

出版年：2003年 / NDC：910.4

わたしのレビュー

この本は 62 項に渡り、古典作品への思いを記したエッセイ集です。したがって、著者はあとがきで古典作品を年代順に並べていない理由を「気ままな散歩を楽しみたかったから」と語っています。時代順、作品順に古典を取り上げるのではなく、順不同にエッセイが並べてあるというのも面白いと感じました。木曾義仲と共に戦った巴御前、仁徳天皇の皇后だった馨之媛……。

ちょっとやさっとじゃ揺るがない、自分をしっかり持った女性に本当に憧れます。ちなみに私は清少納言も好きです。皮肉が上手な人で、そこがまた人間らしく可愛らしい気がします。

文学の世界はとても奥深いです。『文車日記』は古典の世界を広げる、やさしくも深みのある一冊です。みなさんも、ぜひ古典の世界に足を踏み入れてみませんか？

[M.A]

司書教諭のコメント

古典を生き生きと伝え、親しみが持てる入門書である。

あなたの「生きがい」は何ですか？



『生きがいについて』（神谷美恵子コレクション）

著 者： 神谷美恵子

出版社： みすず書房

出版年： 2004年 / NDC：113

わたしのレビュー

「生きがいとは何か」、「生きがいをなくすと人はどうなるのか」など、この本には精神科の医師だった著者の神谷先生が様々な文献やハンセン病の人たちとの交流を通じて感じ、考えたことなどが書かれている。

この本を読むと、「生きがい」とは、私たちが普段考えているような簡単に言葉で表すことが出来るものではないことが分かり、「生きがい」について深く考えさせられる。

ぜひ、著者の言葉や考えなど、その1つ1つについて、じっくり考えながら読んでほしい。

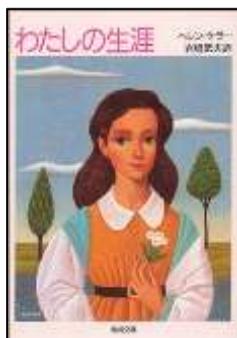
いつかどこかで、あなたの支えになるはずだ。

[A.T]

司書教諭のコメント

岡山県長島愛生園の精神科医、神谷美恵子さんの深い思索。

生きること



『わたしの生涯』（角川文庫）

著 者： ヘレン・ケラー / 訳： 岩橋武夫

出版社： 角川書店

出版年： 1988 年 / NDC： 289.3

わたしのレビュー

目が見えない、耳が聞こえない、言葉を話せないヘレン・ケラーの心の強さは、多くの人に生きることへの勇気を与えてきた。

たくさんの困難にぶつかりながら生きていく彼女は、本当に強い人物だ。自分を見るときも、他人を見るときも、外見だけではなく心を深く見つめなければならない。

また、周りの人のヘレン・ケラーへの愛にもとても感動し、一人では生きていけないことがよく分かった。もっと周りの人に感謝して周りの人を大切にしていきたい。

生きることを考えさせてくれる本である。

[S.M]

司書教諭のコメント

「Water」。物と言葉が結びついた瞬間。言葉には意味があり、生きることにつながる。

話の先が読めない！



『そして、奇跡は起こった！』

著者： ジェニファー・アームストロング / 訳： 灰島かり

出版社： 評論社

出版年： 2000年 / NDC： 297.9

わたしのレビュー

酷寒の地、南極で栄光ある失敗を戦い抜いた男たちに心酔すること
マチガイナシ！

隊長シャクルトンとその部下たちは、南極横断を目標に掲げながら、南極大陸にたどり着くことさえできなかった。これは目的を達するという意味では失敗したことになる。しかし、この失敗からとりわけ心を打つ奇跡が生まれた！船を失い、氷の世界を一年近くさまよった後に全員生還したという事実は、人間にこれほどの力があつたのかと、心の奥にずっしりとした感動が生まれるはず！そして、この本から「生き延びろ」というメッセージを受け取った時、シャクルトンの本当の力を知ることができるに違いない。

[T.I]

司書教諭のコメント

南極での遭難から全員生還。極限状態の中で捨てなかったもの……。

喜び、怒り、悲しみ…… これが日本人だ！



『忘れられた日本人』（ワイド版岩波文庫）

著者：宮本常一

出版社：岩波書店

出版年：1995年 / NDC：382.1

わたしのレビュー

この本は筆者が全国各地をまわり、その地区のお年寄りから聞いた話をまとめたものだ。もちろんお年寄りは私たちよりずっと以前から生きている。つまり「忘れられた日本人」にあたるのだ。そんな人たちの話を聞くことで、私たちは日本の歴史や風土を感じることができる。

この本には、その「忘れられた日本人」から聞いた、その土地に伝わる古くからの伝説や、少しエロチックな話など十三話が入っている。話のジャンルはいろいろだが、自分たちが共感できる部分もあれば、疑問に感じる部分もある。西洋化が進んだ現代に生きる私たちに、日本人とはどのような存在であったか改めて考える機会を与えてくれる本だ。

[M.S]

司書教諭のコメント

民俗学は、名もない庶民の歴史をうつす。「土佐源氏」が有名。

出会いが人生の始まり



『100万回生きたねこ』

著者：佐野洋子

出版社：講談社

出版年：1982年 / NDC：E

わたしのレビュー

読み終わった後、心がホツとなる絵本です。

オススメは、やっぱりトラ猫が変わるきっかけとなる白ねことの出会い!!
そこからトラ猫の人生は始まるのです。

トラ猫は初めて誰かを好きになり、初めて泣きます。大切なものとの
出会いは何者も変えます。この物語自体の主役は猫ですが、これは
人間にも当てはまります。

この絵本を読んで、私は出会いの大切さを考えることが出来ました。
きっとあなたが読んだらまた別の感情が出てくると思います。

あなたも時には絵本を読んで、心を和ませてみてはいかがでしょうか？

[A.K]

司書教諭のコメント

愛することは生きること。愛を生き切ったネコは生き返る必要はなかった。

人間の素晴らしさ



『木を植えた男』

著者： ジャン・ジオノ、フレデリック・バック

訳： 寺岡襄

出版社： あすなろ書房

出版年： 1989年 / NDC： E

わたしのレビュー

この物語は、荒野にひたすら木を植え続けた男のお話です。木が枯れたり苗が枯れたりしてもくじけず、何十年も植えることを続けます。そのおかげで豊かな自然が育ち、動物や人間の住みやすい村がつくられます。その行動から人間の持つ無限の可能性を信じさせてくれるような本です。

たった一人の男が肉体と精神をぎりぎりに切り詰め、荒れた地を幸いの地として甦らせる。そんな人間のすばらしさを教えてくれる本でした。

[N.S.]

司書教諭のコメント

黙々とただ一人木を植え続ける男。静かな持続する意思。広がる緑の大地。

楽しく読める「三国志」



『三国志 愛蔵版』全 30 巻

著 者： 横山光輝

出版社： 潮出版社

出版年： 2007～2009 年 / NDC： 726.1

わたしのレビュー

「三国志」は、魏・呉・蜀の三国が全国統一を目指して戦争を繰り返していた時代です。

このシリーズは、三国の中でも蜀を中心に描いていて、全 30 巻もありますが、マンガなので、テンポよく読めると思います。

蜀中心とはいえ、もちろん魏や呉の話もあります。

「三国志」と言えば、やはり赤壁の戦いですが、赤壁の戦いについてだけ書いてある巻もあります。

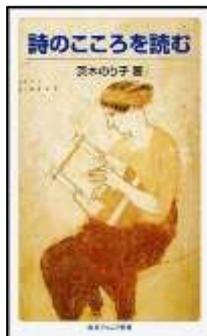
「三国志」が好きだという人は、特に楽しく読める本です。

[K.E]

司書教諭のコメント

中国の英雄たちの話を読むと、心が大きくなる。『水滸伝』、『孔子』などもオススメ。

解説付きの詩集！！



『詩のころを読む』（岩波ジュニア新書）

著者： 茨木のり子

出版社： 岩波書店

出版年： 1980年 / NDC： 911.5

わたしのレビュー

著者の茨木のり子さんは、日本の詩から外国の詩までたくさんの詩を読んでこられていて、また、彼女自身も詩を書いています。この本では、そんな彼女のお気に入りの詩が考察や解説などとともに紹介されています。

この本のいいところは、ひとつの詩に対しての著者の考察などがとても詳しく書かれているところです。詩の世界をよく知っているからこそ気が付くことや、その詩の著者の傾向をもとに考えたこと、ほかの詩と関連があるのではないかということなど、一人で詩を読むだけではわからない驚きがたくさんあります。

詩の内容ごとなどに区切ってあるので、スキ間の時間にも読みやすい本です。

[I.M]

司書教諭のコメント

筆者が紹介する詩、解説に心打たれる。『自分の感受性くらい』もオススメ。

父娘の絆



『父と暮せば』

著者：井上ひさし

出版社：新潮社

出版年：1998年 / NDC：912.6

わたしのレビュー

劇の台本であると同時に、戦後の日本の家庭を描いた作品。これが、この本を一回目に読んだ時の感想でした。原爆が落ちたことへの恐怖や、戦争で変わってしまった人の心。これだけを聞くと「戦争の話なのか」と読むのを敬遠してしまう人がいるかもしれません。

しかし、二回目を読んでもみると、この本は父娘の絆を描いた本であるという風にも思えました。父親と言えば、災害に並ぶ程怖いものの代名詞です。

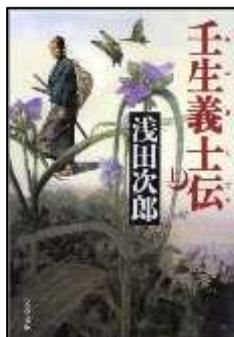
しかし、この本では、娘の恋の様子が気になったり、仕事のことを気にかけてたり、被爆してしまった娘の体調を心配したりと、優しい父親像を発見することが出来ます。

[S.Y]

司書教諭のコメント

悲惨な原爆をテーマに、「生きる」ことをこんなに温かく、切なく描いた作品はない。死後、ますます評価が高まる井上ひさし。

武士のあり方とは



『壬生義士伝』上・下（文春文庫）

著者：浅田次郎

出版社：文藝春秋

出版年：2002年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

盛岡藩の脱藩浪士である吉村貫一郎は、新撰組に入り「守銭奴」「出稼ぎ浪人」と呼ばれつつも、義と愛を貫いた人物です。この作品は作者初の時代小説で、2000年に第13回柴田錬三郎賞を受賞しています。

この小説を読んで、まず吉村の家族への愛情にとても感動しました。家族の飢えをしのごために脱藩し、仕送りをするために新撰組に入隊し、給金のほとんどを家族に送るといふ、一貫した「家族のために」といふ彼の姿勢は現代の私たちも参考にしなければいけないと思いました。

次に、最期まで武士であろうとする彼の姿は、人として本当に素晴らしく思いました。クライマックスは、涙なしでは読めませんでした。

この時代の人々は、本当に武士であることを誇りに思っていたのだろうか、と心から感じました。 [K.S]

司書教諭のコメント

泣きたい人は浅田次郎。『鉄道員』、『Love Letter』、『終わらざる夏』などもオススメ。

数学のおもしろさ



『博士の愛した数式』

著者：小川洋子

出版社：新潮社

出版年：2003年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

私は小学校のときから数学というものが大嫌いだった。数学は、問題を解けている間は楽しいが、解けない問題が出てくるとイライラしてくるからだ。その点、物語なら出てくる人物などの心情を読み取ればいいのだから、とても分かりやすい。数学は数字の心情などを読み取ることなどできない。数字は自分のことを主張しているだけである。

こんなことを言うのは数学者の方に失礼だが、「数学のことを必死に研究して何が楽しく、何がよいのか」と思ってしまう。

そんな思いを吹き飛ばしたのがこの本である。数学の苦手な人でも面白く読めるし、数学が得意な人なら、さらに数学が好きになるだろう。

[M.T]

司書教諭のコメント

√は包み、友愛数で結びつき、江夏の背番号・28（完全数）で終わる。

心のビタミン剤



『ビタミン F』

著 者： 重松清

出版社： 新潮社

出版年： 2000年 / NDC： 913.6

わたしのレビュー

この本は全部で七話の短編から成っています。

どの話の主人公も、自分の家庭や家族に起きた問題に向き合いながら、少しずつ歩んでいきます。

すべての話が円満に解決するわけではありませんが、人の優しさや温もりに触れることができる、とてもほっとする物語です。

特に、妻の入院中に、中学生の息子が父と向き合い、それぞれの問題に立ち向かう話には励まされました。

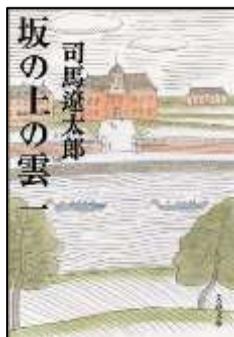
心が疲れたとき、少しほっとしたいときにオススメの本です。

[K.M]

司書教諭のコメント

「F」はファミリー、ファーザー、ファイト。等身大の家族・暖かい視線。

明治人の情熱



『坂の上の雲』全8巻（文春文庫）

著者： 司馬遼太郎

出版社： 文藝春秋

出版年： 1999年 / NDC： 913.6

わたしのレビュー

この物語は、明治維新を迎え近代国家となった日本で生きる人々の姿を描いている。

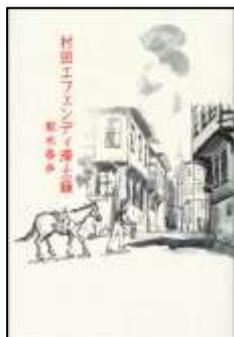
「楽家たちは、そのような時代人としての体質で、前をのみ見つめながら歩く。上ってゆく坂の上の青い天に一朵（いちだ）の白い雲が輝いているとすれば、そのみを見つめて坂を上ってゆくであろう」。後書きのこの言葉通りの前向きさと情熱で、登場人物たちは国の存亡のために、日露戦争に臨んでいく。その彼らのひたむきな姿勢には強く勇気付けられた。

巻数は多いが読みやすく、戦争が主題であるけれども暗い雰囲気はあまりないので、ぜひ多くの人に読んでもらいたい。自分たちの国のために奮闘した先人たちの存在を教えてくれる。大勢の登場人物たちも、かなり個性的で面白い。 [K.Y]

司書教諭のコメント

日本の青春期ともいえるべき「明治」を秋山兄弟・正岡子規を中心に描く。

どこかで心はつながっている



『村田エフェンディ滞土録』

著 者： 梨木香歩

出版社： 角川書店

出版年： 2004 年 / NDC : 913.6

わたしのレビュー

考古学の研究をするために留学した主人公の村田。同じ下宿先で知り合う友人たちとの日常と友情の物語。

「私は人間だ。およそ人間に関わることで私に無縁なことは一つもない」と友人デイトリスは言う。この台詞が、物語のキーを握っているように思える。人種や出身国、文化も宗教も肌の色も違う多くの人々が集まる下宿先で、考え方がぶつかりあってしまう。

でも、どこかで心はつながっている。

この物語は、今からおよそ 100 年前の第一次世界大戦を背景に書かれている。そして、今も戦争が絶えないこの世界で「国とは？」と人々の心に問いかけてくるような気がする。

[H.I]

司書教諭のコメント

「私は人間だ。およそ人間に関わることで私に無縁なことは一つもない」。同著者による『西の魔女が死んだ』は根強い人気。

かつての青春、爽やかな感動



『永遠の0』（講談社文庫）

著者：百田尚樹

出版社：講談社

出版年：2009年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

日本にもこのような時代があったのだと改めて思い知らされました。

この本は日本に生まれたならば一度は読むべきだと思います。

たった一度の青春を軍人として生き、死んでいった人々は愛する家族、恋人、友人たちや国のためにその命を捧げました。

「生きて帰りたい」と願っていたにもかかわらず特攻で亡くなった祖父の生き様を知っていくうちにそれを調査していた彼の孫が変化していく姿には心を動かされました。

この本を読み終えたとき、「悲しい」という感情よりも「爽やかな感動」が心の中に現れました。それだけでなく、自分の中で何かが変わったような感覚を味わいました。

[C.S]

司書教諭のコメント

口コミで広がり、児玉清氏や本校の前校長・西澤先生も絶賛した本。現代にも生きる、人間としての矜持。

作者独特の世界観を、ご堪能あれ



『ポッコちゃん』（新潮文庫）

著 者： 星新一

出版社： 新潮社

出版年： 2012年 / NDC： 913.6

わたしのレビュー

女性ロボットが起こした悲劇—『ポッコちゃん』、彼のペットは、15歳の少女だった—『月の光』、全てを受け入れるその"穴"は、どこへ通じるのか—『おーいでてこーい』など、ショートショート of 俊才・星のブラックユーモアが光る作品が多数収録されている。

特に『おーいでてこーい』は、原発の廃棄物の処理方法など、まるで今の日本の問題がまるごとひとつの物語になったような感覚すら覚えるほど。

[K.S]

司書教諭のコメント

再評価されている星新一。未来を予見するような批評精神にも驚かされる。

小さな犠牲者の大きな叫び



『夜と霧 新版』

著者： ヴィクトール・E. フランクル / 訳： 池田香代子

出版社： みすず書房

出版年： 2002年 / NDC： 946

わたしのレビュー

「アウシュヴィッツ収容所」と聞いたとき、知らないと答える人はあまりいないだろう。第2次世界大戦の頃、ドイツの独裁者ヒトラーが作りあげた世界最大級の収容所であると同時に、多くの人々が殺されてしまった最悪の収容所である。著者であるフランクルさんは、そこへ「被収容者」として収容された「心理学者」であった。

この本で語られるのは、世間一般でいわれている英雄や殉教者による「大きな犠牲」ではなく、おびたしい数の人々の「小さな犠牲」である。そんな犠牲者たちの心からの叫びがこの本から伝わるのなら幸いだ。

「言語を絶する感動」と世界に評されたこの本を、あなたの「青春の一冊」にしてみるのはいかがだろうか？

[Y.K.]

司書教諭のコメント

希望が人を生かす。「それでも人生にイエスという」。20世紀を代表する名著。

本当に大事なものはなに？



『星の王子さま』（岩波少年文庫）

著者：サン＝テグジュペリ / 訳：内藤濯

出版社：岩波書店

出版年：2000年 / NDC：953.7

わたしのレビュー

王子様の訪れた星には王様、うぬぼれ男、酒飲み、ビジネスマンなどいろいろな大人がいた。その誰もが自分勝手な考えを持ち、まわりのものや人が全て自分の思い通りに動くと思っている。

現代の地球にも自分のことばかりを考えて、他人の迷惑を考えず、目先の利益を追求するような人がたくさんいる。大切なものや生きる目的は、いつも自分の一番近くにあるのにそれを感じとることができない。私たちが暮らす世の中はなんて冷たく寂しいのだろう。

そんな世の中だからこそ、この本を読み、王子の純粹で美しい心から、自分にとって本当に大事なものは何なのかを改めて考えるべきだ。

[R.K]

司書教諭のコメント

「大切なものは目に見えない」、「めんどろみたあいてには、いつまでも責任があるんだ」。珠玉の言葉がいっぱい。

悩むことで道は開ける



『悩む力』（集英社新書）

著者： 姜尚中

出版社： 集英社

出版年： 2008年 / NDC： 159

わたしのレビュー

『悩む力』という本は、東京大学大学院情報学環教授である姜尚中によって書かれた本です。この本は、現在の社会の問題から人間の自己形成や生きることについてなど、夏目漱石やマックス・ウェーバーをヒントの一つ一つ丁寧に考えていくような内容になっています。

私はこの本を読んだ時、特に悩みがあった訳ではなかったのですが、不思議と何かスッキリしたような、明日からの活力が湧いてくるような感覚になったのを覚えています。書き方は少し難しいのですが、悩みのあるないに関わらず、是非多くの人にこの本を読んでもらいたいです。

きっと、悩むことに恐れを感じなくなり、元気になれると思います。

[S.K]

司書教諭のコメント

真面目に悩み、考えることにこそ生きる力がある。苦悩することで人は変わる。知の力が今こそ求められている。

信じる心



『サンタクロースっているんでしょうか?』

著 者： ニューヨークサン新聞社
訳： 中村妙子 / イラスト： 東逸子
出版社： 偕成社
出版年： 1979年 / NDC： 386

わたしのレビュー

この話は、実際にニューヨーク・サン新聞に載った社説です。

8歳の少女の「サンタクロースって、いるんでしょうか」という質問に、新聞社のフランシス・P・リチャーチは心温まる返事を社説に綴りました。

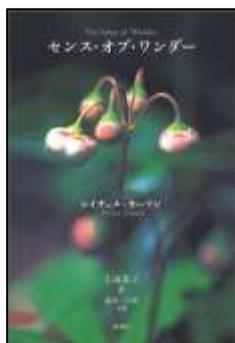
今でも、このエピソードはクリスマスの時期が近づくとアメリカのあちこちの新聞や雑誌に繰り返し掲載され、「そうです、バージニア」という言葉だけですぐ分かるほど有名です。私は、この本を読んで童心に戻った気持ちになりました。心が温まる本です。

[Y.A]

司書教諭のコメント

夢、愛、信じるということだと100年前の記者が答える。クリスマスのプレゼントに最適な本。

自然を感じる心



『センス・オブ・ワンダー』

著者：レイチェル・カーソン / 訳：上遠恵子

出版社：新潮社

出版年：1996年 / NDC：404

わたしのレビュー

レイチェル・カーソンといわれると、『沈黙の春』が思い浮かびます。『沈黙の春』は薬物汚染について書かれており、人が作ったもので世界が壊れるさまも書かれていました。

『センス・オブ・ワンダー』はレイチェル・カーソンが最後に書いた作品で、ただただ美しい世界が、広がっていました。広大な海は荒々しく、しかしその中でもとても心に満ちるものがあります。あらゆる生物の故郷である森には、あらゆる世代をくすぐる何かがあります。

レイチェル・カーソンは甥のロジャーとそんな自然に触れ、最後まで「センス・オブ・ワンダー」を鍛え続けました。そんな世界を感じることで本です。

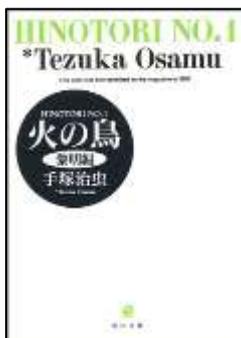
[T.T]

司書教諭のコメント

水や光、空、風など自然への感動こそが大切なことを知らされる。

写真も美しい。

輪廻転生を巡る物語



『火の鳥』全 13 巻（角川文庫）

著 者： 手塚治虫

出版社： 角川書店

出版年： 1992 年 / NDC : 726.1

わたしのレビュー

その血を飲めば不老不死になるという不思議な鳥・火の鳥。たった一羽の鳥を中心に、あらゆる時代の様々な場所で話は進んでいきます。

生きること、死ぬこと、そして生まれ変わること……。登場人物たちの人生を通して生死に関わる全てを考えさせられます。

長い物語ですが、時間を忘れてしまうほど物語に引き込まれつつ読み込んでしまうこと間違いなしの作品です。

この機会に『アドルフに告ぐ』、『ブラック・ジャック』など、手塚治虫の世界に触れてみませんか？

[M.Y]

司書教諭のコメント

悠久の時の流れを超えて人類を見守る。

壮大な宇宙・歴史ファンタジー。

天翔る奏者が生み出す壮大なファンタジー



『獣の奏者』全4巻+外伝

著者：上橋菜穂子

出版社：講談社

出版年：2006～2010年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

次々とのしかかる試練に屈さず、自分の信念を貫きながら、また進まなければならない道を歩きながら、ひたむきに生きる主人公エリンの姿に心を打たれる。

エリンは滔々と流れる歴史の中で、かけがえのない人や獣との出会いと、心の支えであった人たちとの永遠の別れを経験する。そしてまたこれまでの歴史において、神聖なる獣、王獣と心を通わせることにより、封じられたものを壊し、真実を明らかにしてゆく。

そんな数奇な運命をたどるエリンの歩みを描いた『獣の奏者』全4巻とエリンのひとときの幸せが感じられる外伝。「守り人」シリーズなどでも有名な著者の上橋さんはファンタジーの名手である。魅了されることは間違いない。『獣の奏者』の世界は広い。ぜひ実際に読んで、エリンといっしょに王獣に乗ってその風を感じてほしい。

[Y.O.]

司書教諭のコメント

日本にも、こんなに壮大なファンタジー作品がある。エリンと獣と共に人生を重ねる。

「ほんとうの幸」とは何だろう？



『銀河鉄道の夜』（集英社文庫）

著者：宮沢賢治

出版社：集英社

出版年：1990年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

主人公のジョバンニは、ある日夜道で強い光に包まれ、気がつけばカムパネルラと一緒に銀河鉄道に乗っていました。そして、壮大な宇宙の中で二人のあてのない旅が始まります。この作品はファンタジーで光の表現が特徴的であり、ジョバンニとカムパネルラの純粹かつ切ない心の表現が合わさって、胸が苦しくなってきます。

カムパネルラの「ぼくはおっかさんがほんとうに幸になるなら、どんなことでもする。けれどいったいどんなことが、おっかさんのいちばんの幸なんだろう」という言葉が印象に残っています。その後続く「泣き出したいのを一生懸命にこらえている」、「なにかほんとうに決心している」様子から、幼さからくる自分の気持ちと現実を受け入れる心の強さを感じました。

私はカムパネルラのように強くはなれないですが、彼の言葉のように「誰かの幸」の為に動けるような人間でありたいと思いました。

「自分にとっての幸」とは何なのか、「誰かにとっての幸」とは何なのかを深く考えさせてくれる作品です。 [M.Y]

司書教諭のコメント

世界全体が幸せにならなければ、個人の幸せもありえない。3.11 後、宮沢賢治はより注目を集めている。

続きが気になっちゃう物語



『1Q84』全3巻

著者：村上春樹

出版社：新潮社

出版年：2009～2010年 / NDC：913.6

わたしのレビュー

この物語は、青豆と天吾の2人の視点で交互に描かれています。

青豆はスポーツインストラクターをしているのですが、そんな彼女にはもう1つの顔が……。そして、ひよんなことから1984年から少しズレている「1Q84年」に行ってしまいます。

天吾は作家志望の予備校の先生。17歳の女の子が書いた小説の書き直しを知り合いの編集者から頼まれます。しかし、執筆を始めたころからおかしなことが起こりはじめます。

物語を読み進めていくと、青豆と天吾の過去、1Q84年とは何なのか、いろいろ明らかになってきます。

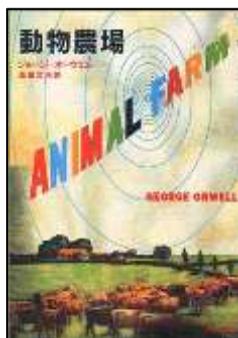
初めて村上春樹さんの本を読んだので少し苦戦しましたが、おもしろかったです！

[Y.G]

司書教諭のコメント

村上春樹は外せない。現代人の冷めた知性と孤独感。エルサレム賞受賞記念時の「壁と卵」は名スピーチ。

見出される人間社会の仕組みと矛盾



『動物農場』（角川文庫）

著者： ジョージ・オーウェル / 訳： 高畠文夫

出版社： 角川書店

出版年： 1995年 / NDC： 933.7

わたしのレビュー

この作品は農場の動物たちの社会を描き、その動物たちを通して人間社会を風刺しています。動物たちは歴史上の人物を元にされているようで、元の人物が分かると、どのように立ち回るのかがある程度分かります。分からなくてもこの作品が伝えたいことは分かります。気が付かないうちに繰り返される過ちと無知故の悲劇、責任の擦り合い、そして酷使される民衆と利益を貪る支配者。それらのことがおのずと分かってきます。

この本は 60 年以上前に書かれていますが、現代に通じることばかりです。原作は英語なので、興味がある方は英語で読んでみてもいいと思います。

[R.M]

司書教諭のコメント

全体主義を批判した寓話的小説。過去の話だろうか？

愛、そして天才が故の孤独



『アルジャーノンに花束を』（ダニエル・キイス文庫）

著者：ダニエル・キイス / 訳：小尾美佐

出版社：早川書房

出版年：1999年 / NDC：933.7

わたしのレビュー

私にこの本を読むきっかけを与えてくれたのは母でした。

初めは、知能障害のある主人公兼語り部のチャーリーに合わせた平仮名と誤字だらけの文章で、読み進めるのに苦労したものの、手術により天才へと変貌させられた彼は、難しい単語ばかりを並べるのでその変化に驚き、また引き込まれていきました。しかし、天才ネズミ・アルジャーノンに自分の姿を重ね、己が迎える未来を悟るチャーリー。崩壊していく文章に触れたときは熱いものがこみ上げてきました。

読んだ後、「人」について考えさせられる本です。

[I.K]

司書教諭のコメント

もし、あなたの知能指数が 200 だったら？ある時期、教室を席卷した SF 小説。

この冊子ができるまでには、多くの人の協力や力添えがあった。

まず、図書委員たちである。題やジャンル分け、選書には、正副委員長を中心に何度も話し合いを持った。1年生から3年生まで全員が夏までに本を読み、お盆明けにはパソコン入力を済ませた。

一番大変だったのは、冊子にまとめた東根司書である。各出版社に著作物利用許可申請をし、全体構成から割り付けまで編集作業をほとんど一人でやり遂げてくれた。

外部との折衝は図書課長、校正は図書課の教員全員で行った。まだまだ掲載したい本はあったし、限られた日程の中での編集作業だったため、不備な点が多々ある点はお許しいただきたい。

なお、今回表紙をカラーにできたのは、日本教育弘済会岡山支部から、「平成24年度学校研究」の助成金をいただけたおかげである。お礼を申し上げたい。また、毎年丁寧に美しく印刷製本をしてくださる土師印刷様にも心から感謝する。

小さな冊子であるが、高校の現場だからこそ発信できる、中身の濃い読書ガイドになっていると思う。生徒の生の声が詰まったこの一冊、活用されるとうれしい。

司書教諭 高見京子

編集者

まえがき： 河合俊和（図書委員長／3年7組）、高見京子（司書教諭）

あとがき： 高見京子（司書教諭）

構成： 松重華菜子（副図書委員長／3年5組）

表紙： 大橋初音（3年1組）

図書委員一覧

1年生	2年生	3年生
永間 康平	川田 あゆ	秋山 善敬
松山 沙紀	山本 紗和	大橋 初音
過能 諒平	中垣 龍征	石田 詩織
藤原 奈々	佐藤 沙紀	山口 百香
玄馬 優香	北川 知夏	上原 一記
近藤 真衣	松下 瑞歩	小林 愛
津國 圭輔	岡崎 真梨	梅本 若葉
須山 かりん	増田 萌	岡村 優里
川畑 慶浩	一ノ瀬 拓実	岩下 夏綺
徳田 文美	岸田 修	松重 華菜子
田中 貴啓	矢尾 燎兵	川原 佑太
櫻間 茉彩	白神 千桜	久保 郁皓
未長 海斗	宗村 健太	秋山 智哉
赤田 実衣菜	村主 菜摘	河合 俊和
鳥井 雅之	石田 翔之	依田 健太郎
幸 祥子	遠藤 佳歩	山本 弥和
水田 涼平		福川 優希
森脇 一恵		藤原 永子

図書課教員一覧

林 俊輔
橋本 鈴枝
高見 京子
磯山 隆史
澤山 浩子
鈴木 努
長屋 年徳
池田 亜須加
駒越 丘
藤田 泰典
東根 さやか（司書）

青春はここで探せ！ — 平成 24 年蒼碑祭 —

平成 24 年 9 月 8 日 発行

編著者 岡山県立岡山芳泉高等学校図書委員会

発行所 岡山県立岡山芳泉高等学校図書課

〒700-8527 岡山県岡山市南区当新田 51-1

TEL : 086-264-2801 / FAX : 086-264-2803

<http://www.hosen.okayama-c.ed.jp/>

■印刷：土師印刷工芸株式会社 TEL：086-262-4077 / FAX：086-265-4834

※書影の使用については、各出版社の許諾を得て掲載しています。

※書影を含め、本書の内容を無断で複写・転載することを禁じます。